

市議会からの意見等

小田原市議会定例会や、厚生文教常任委員会での市民ホール整備にかかる意見等について掲載します。市民ホール基本計画の検討や進捗状況について、ご意見を頂いていることが多いため、ここでは市民ホール基本計画策定専門委員会が発足した平成 23 年 5 月 25 日以降について、時系列でとりまとめています。

○平成 23 年 6 月 9 日 厚生文教常任委員会

- ・スケジュールについて問題点がある。基本計画策定が 3 月の末になっているが、これでは来年度予算の審議に反映されない。議会のスケジュールについて考えていないのではないかと。議会に対しての意識がない。
- ・策定を 3 月に持っていったとして、次年度も引続き作業を行うはずである。基本計画を 2 月にまとめないと当初予算に間に合わないのではないかと。予算の議会に対する意識がないのではないかと。
- ・幅広くおこなうことはいいことだと思うが、出来上がりの時期は議会を意識して欲しい。議会に対しての配慮がないからいつもガタガタしてしまう。議会の日程と予算の計上を意識してスケジュールを進行してほしい。
- ・基本計画で何を定めるのか。土地、建物が確定していないのに、収集がつくのか。基本計画の項目の中にどのようなものが入ってくるのか。また、文化振興ビジョンについて、基本計画と分けて考えるものなのか。
- ・文化振興ビジョンを決めるのなら、市民委員と専門委員を分けて進める仕掛けはわかるが、基本計画においてもそうする必要はあるのか疑問である。

○平成 23 年 6 月 定例会

- ・市民ホール建設予定地の海拔は何メートルか。水防マップだと 8.2 メートル、7.8 メートルとなっている。市民ホール建設にはいろいろな問題があるが、そういった面でも見直さなければならない事態となっていると思う。今まで防災を意識して基本構想をやっているのか、基本計画ではそういったことを取り入れるのか。
- ・新たな市民ホール構想においては、ぜひ年数に応じてメンテナンスの予算というものを計上し、適切な維持管理ができるよう、そして今までの反省を活かして、より良い市民ホールの施設・設備の管理予算というものを立てて頂ければありがたいと思う。

○平成 23 年 9 月 8 日 厚生文教常任委員会

- ・現在の土地の取得状況を知りたい。市民会館のワークショップについて、様々な意見が出ているが、今後 5 年間使用することを見据え、改修の計画をたてるために行ったのか。
- ・市民会館ワークショップについては、改めて取り上げる必要があるのかと感じた。市民検討委員会については、議論が広がりすぎていて、収拾できるのかが心配である。
- ・専門委員会の委員はどのように選定したのか。また、専門委員は市外の方が多いが、小田原のためにいい形で計画ができるのか心配である。

- ・市民委員の人数が多く、收拾がつくのか心配だが、今後、市民委員の意見をとりまとめて、専門委員で決めていくことになると思うが、小田原のホールとして、小田原らしい計画ができるよう望んでいる。
- ・視察は、キラリ☆ふじみにいったようだが、検討している市民ホールと比べて小さい気がする。なぜふじみを視察場所としたのか。どのような点が参考になったのか。

○平成 23 年 9 月 定例会

- ・市民ホールはコンベンション機能と併設してお城通り再開発事業の予定地に建設すべき。そして、三の丸地区は将来の市の庁舎の移転先として確保してはどうか。政の中心は小田原城の近くのエリアで行うべきではないかと考える。そうすれば、中心市街地の活性化、本市の活性化につながり、ひいては県西部の活性化につながるのではないかと。
- ・多くの市民が望んだ市民ホールは駅前から三の丸地区に変更し、用地を拡大、当初の想定より大規模なホールを建設する方向となっている。早期実現、建設総額はマニフェストでは 63 億円を大幅に圧縮するとのことだったが、早期実現は、完成予定が平成 28 年度中となり、早期実現どころか、市民ホールの完成は大分遠のいてしまったように思う。建設費等も低コストに抑えることは多分難しいのではないかと。
- ・いろんなホールを見てきたが、単純に㎡単価で考えれば、今の市長が構想されているものというのは、とてもその金額でできるとは思えない。どこに視点をおき、どこに目標をもっていくのか。
- ・大規模災害対応モデルにしなければならないのではないかと。耐震性を高めるだけでも財政的に大変なことだと思うが、それに津波対策を加えることとなると、立地条件に関しても厳しい再検証が必要になるのではないかと。「万機公論に決すべし」で、公論というのは市民検討とは意味が違う。
- ・用地の買い取り問題はなかなか大変なことだと思う。今まで長い間そこで生活していた方には、今までの歴史と生活を一変させるわけである。用地買い取りの見通しは一定のめどが立ってきていると思うが、確実な見通しがまだ見えていない。
- ・見直しを含めて何回か建設時期を変えざるを得なかったが、これだけの大きな事業で見直しをしておき、その見通しが簡単にいくとは思えない。見直しについてのその課題を明確にし、一つ一つ着実にその成果を積み上げ、議会での議論、市民との合意を経ながらの過程である。建設時期に無理はないのか。解決しなければならない課題もいくつかあるのではないかと。
- ・建設費の問題だが、総事業費は非常に不明確である。これはなるべく抑えなくてはならない。少なくとも（仮称）城下町ホールの 63 億円を下回らなければならないと思う。
- ・3 月 11 日の東日本大震災の前と後では、日本の経済情勢、社会情勢は大きく変わってきている。防災、経済復興、暮らしを守るということでも課題・問題は大きく変わっている。ホールの財源は、今までの考え、見通しだけでは無理だと思う。財政問題で市の負担が減るので、今までの大型事業の市債の返還が終わるからと財政問題を提案してきているが、新たな防災対策、経済対策、暮らし、福祉の対策等も緊急に必要となってきた。その際に旧スパウザ小田原をいつ手放すのか、財源にしなければならないと考える。あわせて、三大事業を同時進行で進めるわけにはいかない。見直しをしたり、凍結をしたりしなければならない。
- ・市民ホール建設は市民にどのような夢や展望を与えているのか。市民ホール建設は大きな

役割があると思う。人間は食べなければ生きていけないが、「人間はパンのみにて生きるにあらず」とも、文学、芸術の大切さも説かれている。市民ホール建設は、市民や住人にとってどのような役割を果たすと考えているのか。市民ホールが建設されたとき、市民への夢や展望はどのようなものがあると考えているか。

- ・東日本大震災を経て厳しい経済状況がある。市財政も厳しい状況になっている。その上、市民の命と暮らしを守るため、地震・津波対策など緊急にも強めなければならない課題が最重要課題になってくる。この課題は緊急にぬかりなく進めなければならない。そうすると、いわゆる三大事業は再度見直すことがどうしても必要。市民ホール建設後、財政が厳しい中での建設になると考えられる。市民が夢と希望をはぐくみつつ、生きる力、展望をつかみつつ、市民のホールが求められる。そのホールについては、(仮称)城下町ホールのとときに多くの市民の方たちが示された、オーソドックスなシンプルなホールでありながら、市民の要望に合った機能的なホールが求められる。その上に防災対策の機能が必要になってくる。これらの機能を持ちながらも、市民が使いやすい利用しやすいホールが求められる。市民や専門家の議論を経ながらも市財政の状況を考えるならば、建設費は前の(仮称)城下町ホールの建設費を超えないことが必要。できれば建設費を大幅に縮減できればと思う。建設費を抑えなければ、その後の大規模修繕の費用及び毎年の日常的なメンテナンス費用、維持運営費も高くなってしまう。このことは、(仮称)城下町ホール見直しの市民運動の市民の要望の最大の要素と言える。夢を追うときには、どうしてもあれもこれもと膨れ上がってくるだろうが、それには厳しい財政状況のことを考え、建設費用を抑えることにも最大の知恵と努力をしていただきたい。

○平成 23 年 12 月 1 日 厚生文教常任委員会

- ・練習室やリハーサル室がそれぞれ大スタジオや中スタジオといった名称になっているが、どういったものか。
- ・大きさについては意識されていると思う。ただ、まだ基本設計もない状態で、中スタジオや大スタジオが一連として使えるなど、機能的な面ではどうなっているのか。
- ・小ホールが一番使われると思うが、200～300席というのはまだ決まらないのか。固定席ということは、ある程度考えているのか。

○平成 23 年 12 月 定例会

- ・行政の責任は、津波災害の恐怖にさらされている海拔 10メートル以下の地域の住民約 10万人全員の避難計画を策定し、対策を講じることではないか。これらの方々の生命を守るための施策を行うことは、行政にとって最重要課題であるとする。極端な言い方をすれば、今懸案となっている市民ホールの建設や駅前の再開発事業にも先立って実施することも検討すべきではないかと考える。
- ・市民ホール建設事業における用地拡張の計画は、大変重要な要素であり、市民ホール整備事業の進捗は用地取得にも大きく左右されるものとする。
- ・昨年度策定された市民ホール基本構想や、本年度策定する市民ホール基本計画の検討状況を見ても、管理運営については具体的な議論がされた形跡がなく、ハード面ばかりが検討されているように思う。ハードは当然のことながら、建物内で行われる芸術活動、ソフトこそが重要であるとする。

- ・市民ホールの運営についてだが、運営管理というのは施設の場合非常に大事な問題だと思う。今後どのように議論していくつもりなのか。
- ・良いホールができるように、よく議論を重ねて進めて頂きたいと思う。

○平成 24 年 2 月 3 日 厚生文教常任委員会

- ・平成 24 年は管理運営計画や設計者選定を行うとのことだが、設計者はとても大事である。設計者はどのような選定手法と基準で決定するのか。
- ・サポートセンターや会議室など、役立つ機能であるが、現在の市民会館で行われている機能はどのように考えているのか。
- ・設計者選定は大事なので、しっかりとお願いしたい。本館機能に対して市民意見は出なかったのか。代替えできる機能は残すなど、考えてもらいたい。
- ・長久手を見てきたときに聞いたのだが、「友の会」があり、無償ボランティアがもぎり等で運営に参加しているとのこと、感銘を受けた。どんな形態で考えているのか。ランニングコストが問題となるのだが、運営は市民（ボランティア）の主体でできるのか。
- ・長久手と同規模だが、ランニングコストは 4 億 5,000 万円で収入は 4,500 万円と聞いた。大きな負担となるが、どのように自主採算を考えていくのか。稼働率が 85%でこの収入なので、かなり厳しいのではないのか。
- ・行政が手を差し伸べすぎると、市民の自立が無くなる場合もある。会員から会費を集めて運営するなど、長久手を参考にしてもらいたい。減免についても問題となっているようで、基本設計の中で市民のコンセンサスが必要となってくる。その辺も考えてやってほしい。建設費は文章の流れからすると、10,000 m²~11,000 m²だと、55~60 億円というのは、おかしい。50~60 億円としてはどうか。
- ・財源として、補助金は 20 億円程度と考えて良いのか。
- ・設計者選定が重要となるが、選定ミスが無いようにしてもらいたい。いかに基本構想・基本計画を忠実に考えているかだ。城下町ホールの時は構想からずれていた。ミスの無いようにお願いしたい。
- ・可児と長久手でも、作った後に使われていない機能もある。過度なホールの機能は配慮すべきと考えるが。
- ・1,200 席という事だが、満席で使われることをどの程度考えているのか。
- ・採算性の問題だが、ランニングコストをどの程度、収入をどの程度、と考えているのか。
- ・市民会館本館の小会議室などの機能は今まで利用は多い。それを含めると、基本計画で示された金額以上になるのではないのか。
- ・学校利用を絶対条件として 1,200 席とするのはいかがか。使う人が本当に 1,200 席いるのか。1,000 席で 2 回（公演）もあるので、本来あるべき欲しいものを作るべき。どちらかという、会議室の方が重要ではないか。

○平成 24 年 3 月 定例会

- ・市民ホール整備事業、お城通り地区再開発事業、小田原地下街再生事業及び市庁舎の耐震改修事業の 4 つの事業は、いずれも多額の費用を要するものであり、本市の財政状況にも相当の影響を及ぼ

すのではないか。

- ・新しい市民ホールの建設に対しては、1日でも早い着工を待望する声や期待が根強くあると思う。しかし一方で、市民会館の耐震工事が終わった今、新しい市民ホールの建設は、もう急ぐ必要はないのではないか。何よりも、命と暮らしを守る災害対策に重点的に予算を振り向けるべきではないかという空気が、市民の中に大きく広がっているように感じる。
- ・場所、土地が決まらずに、いろいろなことの検討は進んだが、平成 28 年度開館に向けて、今度こそ間違いなくスケジュール通りに進むのか。
- ・用地取得中のためか、機能図は作成されておりますが、それには、施設位置や敷地配置が明確に図示されていない。市民が施設配置などを直感的にイメージできない状態で、市民ホール基本計画をどのように周知させようとしているのか。
- ・管理運営計画の策定には、市民参加が重要と考えている。基本計画にも、「専門性の確保と市民参加とは両輪」「市民参加を得て専門家と組んで運営することで市民の芸術文化度が倍増する。」「サポート組織や友の会の形成が有効」などの記述がある。市民ホールの運営への市民参加は、「みんなのルール」「私たちのホール」となるために非常に重要なことだと理解しているが、市はどのように進めようと考えているのか、現市民会館の段階から具体的に進める必要があると考える。
- ・市民ホールは、一部の市民の単なる芸術文化活動の発表の場に過ぎないのではないかと危惧している。市民ホールは文化活動に関わっている一部の市民だけのものではないはず。
- ・現代の生活において、車は必要不可欠であり、芸術文化を楽しむ際にも、車での来場が予想され、駐車場がある施設は大変便利で利用しやすいと考える。現市民会館は、周辺には一般の有料駐車場があるものの、市民会館専用駐車場がなく、不便を感じている。